いなほ

稲積神社社報
第49号

平成30年　大祭号

奉祝　天皇陛下御即位三十年

夕暮れ時の祈願提灯

明治維新より百五十年を迎え

宮司　根津泰昇

本年は、天皇陛下御即位三十年の佳節の歳に当たります。今上陛下は常に国家、国民の為に大御心を捧げられております。そのお気持ちに感謝の誠を捧げ「天皇陛下御即位三十年奉祝大祭」として例大祭正ノ木祭を斎行致します。

本年は、明治維新から百五十年の節目の年です。振り返れば、米国ペリー提督が来航し、幕府に開国の圧力をかけてきました。この国難に接した先人たちは、三百年続いた幕藩体制でなく、天皇を中心とし、外国との交易を通し、諸外国と対等に接する事ができる国造りを選択し、明治の大改革を断行して参りました。

明治天皇は近代国家の生成に「五箇条の御誓文」を発しました。現代語訳で記します。

一、広く会議を開き、あらゆることについて公の議論の場で決定すべし。

二、上の者も下の者も互いに一致協力して、国家秩序を盛んにすべし。

三、役人、軍人から庶民にいたるまで、だれもがその志しをまっとうし、途中であきらめたり怠けたりしないようにはかるべし。

四、過去のあやまった風習や弊害をやめ、なにごとも天地の道理にのっとるべし。

五、新しい知恵や知識を世界中に求め、大いに天皇国家をふるいたたせるべし。

先人達は、この御誓文の心を軸とし近代国家を成し得てきました。私達も将来を担う人たちの為に、日本らしい国づくりに一躍を担わなくてはならないでしょう。

甲府は明治天皇陛下とは非常に縁があります。天皇に即位なされますと、大嘗祭が執り行われます。

大嘗祭とは、新帝陛下が一世一度行われる儀式で、その年の新穀を神に捧げ、自ら食す祭儀です。毎年行われる儀式が新嘗祭です。大嘗祭では、斎田も東日本（悠紀田）と西日本（主基田）を卜定で定め、神事でお供えする稲作をします。

明治四年に行われた大嘗祭の悠紀田の跡地は甲府市上石田三丁目にある南西第一児童公園の場所で、悠紀斎田の記念碑が建てられています。是非一度足を運ばれたら如何でしょうか。

大祭を迎えると一年の四半月が過ぎました。年頭にこの一年はどんな年かを話しましたが、記憶にございますか。改めて記しておきます。戊戌は「野良犬」を意味します。野良犬ですから自由奔放の性格があります。故に気を引き締める事が重要になります。九紫火星歳は物事が表面化する作用がありますので、諸事に慎重性が必要です。従って物事は慎重に判断し、努力を惜しまず行動することにより、良き方向に舵が切れるでしょう。本年の特徴は、事象が良き方向に進み良い結果が生じると、己に栄誉を受けたり、仁徳を称賛される徳を得ます。残されている月日を大切にならって下さい。

平成三十年度 正ノ木例大祭神賑行事（予定）

五月二日（水）
- 正ノ木献木祭　午前十時～
- 正ノ木前夜祭　午後六時～
- ザ・コンブポンズ&原田喜照　午後六時四五分～

三日（木・祝）
- 正ノ木例大祭　午前十時～
- 宮神輿渡御　午前十一時～
  宮神輿　子供神輿
  町内神輿
  甲府商工会議所山車
- 宮神輿還御　午後三時三十分頃

※甲府囃子は宮神輿の近くで演奏あり
- 奉納相撲大会　午前十一時～午後三時
- バザー　正午～午後一時
- 崇敬青年会主催行事　午後四時～八時
  （神部冬馬　ズンバ　バンド他）

四日（金・祝）
- 正ノ木二之祭　午前九時～
- 神社舞台　午前十時～午後八時
  （ご当地アイドル「FUJI SAKURA塾」平元会　三味線演奏　他）

五日（土・祝）
- 正ノ木三之祭　午前九時～
- 正ノ木成就祭　午後五時～
- 神社舞台　午前十時～午後八時
  （バンド　ざ　しょうのき　ご当地アイドル「FUJI SAKURA塾」童謡　ちゃんこの会　他）

※三日～五日「さるまわし」随時開催

※詳しくは「稲積神社」ホームページを検索

正ノ木祭

土肥　新

『しょーのきさんがーやってくるー』

子どものころの「お祭りの風景」というものは、多くの人の脳裏に刻まれ続けていると思う。神社の参道に露店が並び、公園で遊びながらわたがしを食べる。細かいディティールは覚えていなくても、楽しかった思い出はしかと心が記憶している。

冒頭の一文は、私が幼いころからのゴールデンウィーク、正ノ木さんの定番曲である。この曲が流れる時期が今年もやってきた。稲積神社に生まれ育った私は家を一歩、外に出れば正ノ木祭りであった。一般的な「ゴールデンウィークは家族で旅行！」という概念は一切なく、「ゴールデンウィークは正ノ木祭りだ！」と毎年楽しみにしていた。

今年はどのような露天が出店しているのか。何年か前、暴力団問題で露店の数が減りとても寂しい時があった。植木の出店も少なくなった中、最近は一般の店舗の出店者が数多く存在している。気に入った露店があると、そのお店の場所を出店者に聞き、お祭り終了後もお店に通うという新しい楽しみ方も増えた。それと同時に、二十年以上前から毎年見かける露天もあり、それらは安心感を与えてくれる。

催し物としては、奉納相撲大会・猿まわし・バンド演奏などがあるが、お祭りといえば御神輿ではないだろうか。稲積睦会の皆さんが担ぐ宮神輿は迫力があって圧巻だ。しかし、私の中で思い出深いのは、神輿は神輿でも私も毎年担いでいた町内主催の子ども神輿だ。小さな子供から中学生になる子供まで神輿と山車を一生懸命引いている姿は輝いて見え、子供達の笑い声によりお祭りは活気溢れてくる。この中からも、将来宮神輿を担ぐ子がいるのだろう。

最後に私事ではあるが、人生三十年間毎年楽しみにしてきた正ノ木祭り。そのお祭り中に今年は私の第一子が生まれる予定だ。その子も私と同じ、正ノ木祭りとともに成長して欲しいと願っている。

子どもからお年寄りまで楽しめるお祭り、今年も存分に満喫しようと思う。

太田東青遊会

大竹　裕二

正月の初詣が終わるとゴールデンウィークのカレンダーを確認し、新年度を迎えると天気が気になり始めて、今年も始まる！と感じる正ノ木祭り。私は稲積神社のほぼ隣の家に生まれて三十二歳まで過ごしました。我が家では、お盆や正月より祭りが最大のイベントになっており、今でも母は私の子どもも含め「祭りはいつくる?」と三月頃から言っています。

「正ノ木祭り」といえば屋台です。県内外から二百店舗以上の模擬店が出店します。子どもの頃は稲積神社でお参り→公園→一蓮寺のルートでクジ・射的・輪投げをしていました。一度だけではありません。親戚が来るたび同じルートを回り屋台を楽しみました。

植木市は今も昔も変わらず有名ですが、私が学生の頃は、家具屋のキズ物市も名物の一つでした。その家具屋が親戚だったので、私も小物を売ったり家具の配達をしたりと手伝いをしました。物が売れたときの嬉しさを祭りのたびに思い出します。

さて、現在太田町東部青遊会では、毎年子ども神輿を繰り出します。小さい子は綱を引き、大きい子は力いっぱい神輿を担ぎ、神社から遊亀通りを練り歩きます。私は何十年にわたりお手伝いをしています。子どもだけでなくお手伝いする大人も毎年楽しみにしています。年々子どもの数は減っているものの、地区の皆さまに協力していただきながら今後も絶やさず続けられたらと思っております。かわいい子どもの神輿をみかけましたら「わっしょい」とぜひ声をかけてあげてください。

今年ももうすぐ一大イベントがやってきます。お天気を気にしながら五月を心待ちにしたいと思います。

我が家の神棚祭り

ビジネスサポート
行政書士　藤原　進

私は、四十数余年ボーイスカウト活動に奉仕してきました。入隊したてのスカウト達にリーダーは、スカウトとして基本とされる三つちかいとおきてを教えます。

誓いの一番目は「神と国とにまことを尽くしおきてを守ります。」二番目は「いつも、他の人々を助けます。」三番目は「からだを強くし、心をすこやかに徳を養います。」と。

この三か条の誓いは誰に対してとか、何に対して誓うのではなく「自分が自分に誓う」のだと、教えます。

神、国などは抽象的存在であるが、最小限これらの存在を否定しないことをあらわしている。と考え神仏を否定した無神論者や、国を否定した思想の持ち主はこの活動にはなじまないのです。

このような日常を過ごしてきた私は平成二年四月に独立開業し、平成五年六月に現在地である昭和町清水新居に事務所を移転いたしました。

開業間もない私にとっては多額の借金を背負い込みながらも自らの事務所を構えたことに大きな喜びと希望、なによりもモチベーションの高まりを覚えました。喜びと不安の表裏一体とした言い知れぬ思いがありました。

そんなある日に、稲積神社の存在を知り、崇敬会入会させていただき、毎月の月始祭や節分祭、夏越の大祓式、年越しの大祓式、甲府盆地最大級の祭り正の木祭りにも参加させていただき、神社をより身近に感じるようになりました。さらに嬉しかったのは、そこに集う多くの方々とも親しくさせていただき、心の幅も人間としてのキャパシティーも拡がった思いです。

これが神恩というものかと改めて思い神社の関係者の方々に感謝いたしております。

十余年前に事務所の神棚を新調し稲積神社の宮司さんにお願いし、お祀しました。

毎朝、榊と水器の水を換え、一日の安全と事務所の平穏を念じ掌を合わせています。

思えばこの姿は特別なものではなく、普通の日本人が普通に過ごしている日常の姿だと改めて気づきました。

自分自身の人生を振り返ったとき、何度も「見えざる手」に導かれてきたような心持になります。

稲積神社に出向き、鳥居をくぐり、本殿の奉納提灯から拝殿を覗くと、そこには厳粛な神域があります。我が家の神棚はこの拝殿に通じているのだと、勝手に思っているのです。自分にとって神棚は、自分自身に正直に向き合える場であると考えています。

毎年恒例の新年祈願例会に参加して思う事

甲府南ロータリークラブ　会長　小林成光

みなさんお揃いで、平成三十年の輝かしい新年をお迎えになられたことを心より、お祝いしお慶び申し上げます。

私は、平成二十九年七月から三十年六月までの間、伝統ある甲府南ロータリークラブの、第五十九代の会長を務めております、小林成光と申します。

昨年度、前年度深沢会長が、稲積神社「いなほ」でも申し上げましたが、当会では毎年、恒例行事のごとく新しき年の事始めとして、新年祈願例会を催行いたします。当会の会員でもあります、「根津泰昇（宮司）」殿にお願いし、当会の発展と安全祈願を行い、合わせて、会員お一人々の幸せを祈ります。毎年のことながら、こうして参加すると新年のスタートに心が穏やかになり、心身共に浄化されるような気がします。

今さら、申し上げるまでもありませんが、ロータリークラブの主な活動は個々の企業活動を通し、地域、社会に貢献する事（奉仕）を目的とします。現在、約七十四名の会員で構成され、さまざまな活動を行っています。

さて私は、この地域で生まれ、育ちました。物心着いた時から、甲府市立動物園「遊亀公園」で遊び、行き帰りには、お寺で「一蓮寺」、神社で「稲積神社」に手を合わせていた事を思い出します。今でも、お寺や神社の前を通る時、「心の中で手を合わせる自分が居ます。」自分の先祖や「地域の氏神様、地域の崇敬神社」にも拝礼しお礼を申し上げます。…『いつも、お守りいただきありがとうございます。』の気持ちです。時には、自分が危機に陥った時、いろいろな事柄を、お願いしたことも、多々あります。…「困った時の神頼み」です。

私の尊敬する先輩から、こんな話を聞いたことがあります。神社は、「願い事をし、自分への誓いを立てる場所」との事、…夢や目標を立て、その事に対して努力する事を誓う場所…との事でした。こんな、時こそ自己研鑽に努め、自分を磨き努力する事を基軸としたいと思います。私の会社では、「誠実、積極、健康」を社是としています。これを以って邁進し、地域に自分の出来ることで、貢献したいと日頃から思っています。

今年度のロータリー活動のテーマに『道を繋ぐ』をかかげました。当クラブは、来年度六十周年を迎えます。全ての『道』事柄には道理があり、道筋を通して行動することが最も重要であり、人の進む道だと思っています。これを外すと世の中が成り立ちません。ロータリークラブ発展のため、地域社会発展のため、会員とともに努力したいと思います。

最後に、「稲積神社」様に敬意を表し、根津宮司殿はじめ、ご関係者各位のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

恵方参りの旅行

常若会　山田一郎

平成三十年二月四日、五日と稲積神社主催、千塚八幡神社、恵比寿神社協賛による恵方参りの旅行に、バス二台八十余名にて参加しました。今年の恵方は「南南東」丙にあたり、静岡県富士市に鎮座する「富士山本宮浅間大社」に正式参拝となりました。国の重要文化財に指定されている三間社流造の二階を持つ檜皮葺の建物は浅間造と呼ばれ、奥宮は、富士山頂上に鎮座しています。湧水が豊富に流れ込む池があり、富士山の噴火を鎮める水徳の神を祀る場所でもありました。富士山に降った雨や雪が麓の方に押し流され湧水としては、水温は平均十三℃、毎秒三・六klの湧水量によって国の天然記念物に指定され「湧水池」と呼ばれています。昼食は、なぜか？「みんなのハワイアンズ」でした。バイキングで食事をすませました。午後は「日本の滝一〇〇選」に選ばれている、川端康成の「伊豆の踊り子」などにも登場する伊豆を代表する名瀑「浄蓮の滝」を見学しました。その後、東京ラスクにて試食と買物を楽しみ、宿泊先の修善寺温泉「桂川」にて温泉の恵みを味わい旅の疲れを癒すことができました。例年のごとく、楽しい宴席に時間を忘れ、歳を忘れて過すことができました。夜遅くまで青春の居酒屋を店開きしていた部屋もあったようです。

翌朝は弘法大師空海が開基したと伝わる古刹「修禅寺」に各々が自由参拝をし、その後、神奈川県箱根町に鎮座する「箱根神社」の正式参拝をしました。古来関東総鎮守箱根大権現と尊宗されてきた名社であり交通安全、心願成就、開運厄除に御神徳の高い運開きの神様として信仰されています。二四〇〇余年前、聖占上人が箱根山の駒ヶ岳より主峰の神山を神体山としてお祀りし、関東における山岳信仰の霊場となりました。一二〇〇余年前奈良朝初期萬巻上人が現在地に里宮を建て、箱根三所権現と称え奉りました。平安朝初期箱根路が開通し往来する旅人が道中安全を祈るようになりました。鎌倉期、源頼朝らの信仰により二所詣（箱根三所権現を伊豆山権現参詣）の風儀が生まれ武家による崇敬の篤いお社として栄えました。近世は箱根道が整備され箱根宿や関所が設けられ東西交通の要となり交通安全の祈願所として信仰の聖地へと変貌しました。明治の初年には神仏分離により関東総鎮守箱根権現が箱根神社と改称され今日にいたっています。昼食は箱根湖畔荘にて、わかさぎの天ぷら。立春とは言えまだ寒い芦の湖畔をふるえながらの散策。小田原の「鈴廣」にてお土産を買い、楽しく恵方参りができ、今年は良い年になりそうです。次回もぜひ参加させていただきたいと思っています。

靖國神社正式参拝

神道政治連盟主催の靖国神社参拝旅行が、去る三月二十七日に開催された。当神社からは十八名が参加致しました。

まだ肌寒い早朝、遊亀公園前でバスに乗車し、県内のバス五台が合流する談合坂サービスエリアに向かい、その後一路靖国神社に車を走らせました。首都高速竹橋インターから一般道に出ると、皇居平川門、北の丸公園は勿論、靖国神社は桜が満開で大勢の人で賑わっておりました。まさに、英霊顕彰には最適な参拝日和でした。参集殿に向かいますと、すでに山梨県選出、また比例区選出の国会議員の先生方も到着しており、お出迎えをいただきました。早々にセレモニーが開かれ渡辺山梨県神政連本部長の主旨説明があり、後に新たに宮司に就任された小堀新宮司様より御挨拶を賜りました。その後各国会議員の先生方より挨拶を頂きました。

正式参拝は、先ず拝殿にて修祓を受け、二班に分かれて幣殿に進み、英霊に対し黙とうを捧げ、代表者による玉串奉奠で一同拝礼し、社殿を降段し直会を受けました。

靖国神社を後にし、横浜中華街へと車をすすめ、今回の参拝旅行のお楽しみである、中華街での昼食を楽しみ、各々懇親と親交を深めました。中華街の散策も異国情緒とお土産を大いに楽しみました。帰りの車中は一日の思い出話で盛り上がりました。

大勢の参加者に恵まれ参拝出来た事は、英霊もさぞかしお喜びになられたことでしょう。来年もご一緒出来ることを楽しみにし報告といたします。

山梨県女子神職会 設立三十周年を迎えて

権禰宜　土肥東宮

生憎の雨模様の三月七日、女子神職会設立三十周年記念大会が、全国女子神職会会長様、関東地区の女子神職会会長様方、山梨県神社庁庁長様、理事様方、役員様方の御臨席をいただき開催いたしました。奉告祭を神社庁にて執り行い、式典・講演会・祝賀会をベルクラシックにて無事終さめる事が出来ました。

神社に生まれ育ってきたものまさか自分が神職にとは夢にも思っていなかったのですが、神職として歩み始めた三十年前、先代宮司の父より「女子神職会が立ち上がるので神社庁へ」との命を受け、不安いっぱいに出席しました。その頃の私は、神職とは名ばかりでした。しかし、会に出席する度ごとに大先輩方からの経験話と神職としての姿などの教えを請う場となっていきました。

初代会長松尾久野先生を始め大先輩の方々が、男性社会真只中を必死で神明奉仕され、女子神職の道を築き上げて来られた事を肝に命じ感謝を忘れず、これからも女性の特性である木目細かな心配りや優しさを持った神職でありたいと思います。

現在会員数は二十四名、若い会員の力も大きく育ち、知恵の先輩方と行動力の若い方々により益々発展し、癒しの場として素晴らしい女子神職会を会員全員で共に作っていきたいと思います。

最後に三十周年記念大会を開催するにあたり、ご指導ご協力くださった諸先生方、神社庁様誠にありがとうございました。

神道のいろは

お稲荷様の狐が口にくわえているものはなんですか。

稲荷神社の狐像にはさまざまな形態が見られます。これは稲荷様が氏神の神社や祠に祀られていたり、各家の屋敷神として邸内社に祀られるなど、その信仰に多様性があるためといえます。稲荷信仰は稲荷神社の御祭神である宇迦之御魂神が五穀や食物を司る神であるように農耕神・穀霊神としての御神格が中心となっています。

このため御質問の狐像が口にくわえているものも、穀霊を象徴する玉であったり、稲束を刈る鎌であったりとさまざまです。また、穀物を納める米蔵の鍵をくわえている狐像もあり、この像からは穀霊神であるのと同様に自家の米蔵、つまり家財を守る神、家内安全、家業繁栄の神としての信仰も窺うことができます。

このほか、お経の巻物や火焔の燃え上がる如意宝珠などの仏法具をくわえたものも見られます。これは、我が国において稲荷神の信仰と仏教が結びついた影響によるもので、具体的には仏教の荼吉尼天と習合しました。インドにおける荼吉尼天は、鬼神で、六カ月前に人の死を知り、その心臓を取って食らうという恐ろしい女神でしたが、日本では福神化され、狐に乗った稲荷女神の姿が民間に広まりました。

神社の参道に一対で置かれた狐像の中には狛犬と同様に社殿に向かって右（上座）が口を開いた「阿」であり、左（下座）が口を閉じた「吽」で、「阿吽」の対になっている場合もあります。このうち物をくわえている狐は、口を閉じている左の「吽」の方が多いようです。このことには諸説ありますが、明確な理由はないようです。

参道の狛犬などについて教えて下さい。

神社にお参りすると参道の両脇に一対で置かれた石製の狛犬を見かけます。神社境内のことを語るとき、鳥居と並んでまず思い浮かぶほど、狛犬は神社にとって一般的なものとなっています。

普段、私たちは石製のものを多く目にしますが、このほかに、社殿内に置かれる木製や陶製のもの、また金属製のものなどがあります。狛犬は高麗犬の意味で、獅子とともに一対になって置かれているとする説もあり、その起源も名称が示すように渡来の信仰に基づくもので、邪気を祓う意味があるといわれています。

神社にあるのが一般的ですが、寺院でも稀に置かれることがあり、東大寺南大門のものが石製としては我が国最古のものとされています。また、宮中では几帳の裾に置く重石として木製の狛犬を用いていたようです。

神社によっては狛犬ではなく、狐や牛などの場合もあります。狐は稲荷神社、牛は天満宮に見られ、共にお祀りされている神様の神使であるとされています。

狛犬の表情は神社、あるいは地域によって実に多様です。各地の神社を訪れた際に、いろいろな表情をした狛犬を眺めることもお参りをする楽しみの一つになるのではないでしょうか。

神社新報社発行「神道いろは」より抜粋

安産祈願の歴

安産祈願は神様に参詣し懐妊の報告と無事出産を祈願する行事です。

戌の日が選ばれるのは犬が安産であったため犬にあやかって戌の日に祈願するようになりました。近年はご都合の良い日を吉日と定めお参りなさる方も多くなりました。

平成30年　戌（いぬ）の日カレンダー

5月	6日（日）大安	18日（金）先勝	30日（水）先勝
6月	11日（月）先勝	23日（土）友引	
7月	5日（木）友引	17日（火）仏滅	29日（日）仏滅
8月	10日（金）仏滅	22日（水）赤口	
9月	3日（月）赤口	15日（土）先勝	27日（木）先勝
10月	9日（火）先負	21日（日）先負	
11月	2日（金）先負	14日（水）仏滅	26日（月）仏滅
12月	8日（土）赤口	20日（木）赤口	

節分祭

節分とは節目のことです。季節の別れとも言います。本来は立春・立夏・立秋・立冬とそれぞれの節目の前日を指しますが江戸時代以降は立春の前日を節分と呼ぶようになりました。

二月三日の節分では冬が終わり春を迎える節目を言い、旧暦では新年を迎える日です。

節分では豆を撒きますがこれには理由があります。古来より五穀には穀霊が宿るとされておりその霊気をもって魔を払うとされてきました。また豆は米よりも大粒であることから穀霊で魔を滅するのに最適とされることや、魔の目（魔目＝まめ）に豆をぶつけて魔を滅する（魔滅＝まめ）に通じるとされ豆が神事に用いられる理由の一つです。

針供養

「二月八日は事始め（針供養）の日、十二月八日は事納めの日」として広く知られていますが、「十二月八日を事始め、二月八日を事納め」としている地域もあるようです。

二月八日を事始めとする考えは、農作業の始まりと終わりを表しているようです。

当神社では慣例にならって二月八日に境内にある針供養塔の前にて「針供養祭」が斎行されました。

針供養とは、旧年中にお世話になった針を、やわらかい豆腐やこんにゃくに刺し供養する神事で江戸時代より行われているようです。

参拝者がそれぞれ持ち寄った針は針供養塔の裏に納めて土に返します。

祈年祭

祈年祭とは一年の五穀豊穣・国の安泰、隆昌を祈る祭祀です。

日本の民はもともと稲作で繁栄している国柄でありますので祈年祭は一年の中でも重要なお祭りです。

稲積神社甲府伊勢講

小國神社参拝と八丁味噌・えびせんべい工場見学
豊川稲荷参拝と焼津の海産物を味わう

南知多温泉「活魚の宿美舟」に宿泊する１泊２日の旅

◎旅行実施予定日　平成30年10月21日（日）～10月22日（月）
◎募　集　人　員　90名（最少催行人員80名）
◎旅　行　代　金　おひとり　￥35,000

月日曜	行　程	食事
10／21（日）	甲府各地＝＝＝＝＝＜新東名＞＝＝＝＝＝小國神社［正式参拝］＝＝＝＝＝ ＝＝＝＝＝浜松市内［昼食］＝＝＝＝＝まるや八丁味噌工場＝＝＝＝＝南知多温泉（泊） ご宿泊　南知多温泉「活魚の宿美舟」　電話0569-63-2200	朝－ 昼○ 夕○
10／22（月）	南知多温泉＝＝＝＝＝えびせんべいの里工場見学・土産＝＝＝＝＝ ＝＝＝＝＝豊川稲荷散策＝＝＝＝＝焼津おさかなセンター＝＝＝＝＝ ＝＝＝＝＝＜新東名・中部横断道＞＝＝＝＝＝甲府各地	朝○ 昼○ 夕－

崇敬会友の会活動報告

会長　大森　丘

崇敬会のみなさまにはご健勝でご活躍の事と拝察致します。

早いもので稲積神社崇敬会が再興十四年になります。同時に立ち上げた我が崇敬会友の会も十四年の歳月を経て現在では諸般の事情で休会されている方々を含め二十八名の会員で活動しており、毎月二日を定例会として会員相互の親交を深めております。友の会の主な活動としましては、神社の永いながい歴史の中で崇敬会が担ってきた、正ノ木祭りを始めとして、それらの神事や祭りを陰から盛り上げて行くことが崇敬会であり、その外郭団体の一角を友の会としてご奉仕させて戴いております。

そんな中で私どもの友の会としての具体的な活動としましては先ず友の会の会員でもある藤本正ノ木祭実行委員長の下で正ノ木祭りの期間中、二日の前夜祭から五日の終了祭までの間、会場駐輪場の整備及び公園内の巡回を担当させて頂いております。まだ、たった十四年ではありますが毎月の例会を初め例大祭等神社の諸行事及び伊勢講、伊勢神宮の式年遷宮等の行事にあわせての奉賛並びに参拝旅行等、都度参加させて戴き親交を深めております。友の会としましては一人でも多くの方と語り、繋がり、参加して頂けるように、又、支援や応援が出来るようにと考えております。

そして私どもが継承してきた崇敬会をしっかりと、豊かに、次世代へ受け渡して行きたいと考えております。

尚、我々友の会としましても、更に会員を増やし神社への貢献を増して行きたいと考えております、是非皆様のお知り合いをご紹介して頂けたら幸いです、よろしくお願い致します。

重ねて皆様のご自愛をお祈り致します。

崇敬会常若会活動報告

会長　井上重良

崇敬会常若会は、発足して五年目となります。六名程の発起人で始まった常若会も、今では二十六人の大所帯となり楽しく活動しております。

常若会の目的としては、稲積神社崇敬会会員として自覚を持ち、稲積神社の維持発展に協力することと、外郭団体との親睦・交流を図り、協力して事業の展開をする事としております。

基本的には、毎月四日を定例会として無尽形式で開催しております。

年始め一月四日は、新年祈願を拝殿で行った後、新年互例会として開催致します。

二月は、三日の節分祭を例会として開催致します。例年常若会の山田副会長、小林会計が鬼に扮して活躍して頂いております。恵方参りの旅には、良い「気」を得て一年間過ごす事ができる様に毎年多くのメンバーで楽しく参加させて頂いております。

五月の正ノ木祭りでは、二日の前夜祭を例会として、六日の片づけまで手分けをしてご奉仕しております。祭りでは、主に本部のテントに詰めて、会場内の見回り、参拝者への案内、他の外郭団体のお手伝い等でご奉仕を致しております。

七月例会は、六月三十日に行われます「夏越大祓祭」に合わせて行います。半年の身に付いた罪や穢れ等を祓い清め、残す半年の無病息災と商売繁盛を祈願し、茅の輪くぐりも体感致します。

昨年、九月は、崇敬会大祭に合わせて行い、直会を定例会と致しました。

十二月は、稲積神社関係者合同納会を定例会として行います。以上が大まかな年間スケジュールです。

常若会は、外郭団体の中で一番歴史の浅い会です。まだまだ至らぬ点も多々ありますが、根津宮司様、根津禰宜様、土肥権禰宜様、長潟睦会会長様にも常若会のメンバーとして参加頂いて、いろいろご教授を賜りながら、楽しく活動しております。

今後も宮司様、総代様初め諸先輩方のご指導を頂きながら成長して行き、皆様のお役に立てます様に活動して行きたいと思います。今後とも、よろしくお願い致します。